

千葉あいご

Vol. 73

Index

- [1]~[3] 第31回全国グループホーム等研修会 in 千葉
- [3] お知らせ
- [4] 福利厚生委員会報告
- [5] 支援スタッフ部会報告
- [6] 新事業所紹介
- [7] わが施設の自慢・アピールポイント⑩
- [8] 千葉知協トピックス
- [8] 事務局だより・編集後記

第73号 (2019年12月号) 発行日: 2019年12月20日 / 発行者: 里見吉英 / 編集者: 嶋山正昭・菅谷大輔・秋山直樹

発行所: 千葉県知的障害者福祉協会

[本 部] 千葉市中央区中央4-3-5 カンガルービル4F B TEL 043-224-5721 HP <http://www.chibachiteki.com/>

[事務局] 船橋市金堀町499-1 大久保学園内 TEL 047-457-2462



第31回全国グループホーム等研修会 in 千葉

令和元年8月29日・30日の2日間にわたり、アパホテル&リゾート東京ベイ幕張において第31回全国グループホーム等研修会が開催されました。今回の大会は「グループホームの果たすべき役割、進むべき方向性」時代をつなぐ、「次代につなぐ」をテーマに全国から1000名を超えるご参加をいただきました。開会式では社会福祉法人さんか会、北総育成園の白樺氏が司会を務め、開会にあたり主催者の日本知

的障害者福祉協会会長井上博氏、千葉県知的障害者福祉協会里見会長より挨拶がございました。第1日目は、はじめに行政説明としての厚生労働省 社会・援護局 障害福祉課 地域生活支援推進室 室長補佐 高橋邦彦氏より「グループホーム施策の変遷と今後の見通し」について令和元年度障害保健福祉関係予算の概要やグループホーム利用者の推移、各種加算の算定状況などを中心にご説明いただきました。

続く基調報告では日本知的障害者福祉協会地域支援部会 副部会長 渡部等氏より「全国グループホーム実態調査から。ズバリ! 現状と課題を解説」と題して、まず、毎年実施していることの目的と意味について、公的機関が作成したデータに比べて、福祉協会の実態調査は毎年実施しているので、動きがかなりリアルタイムであり、非常に重要かつ、新しい制度の動きを把握するためにとっても重要なことや入所施設や通所施設の運営が多かつたが、だんだんグループホームだけの単独型での運営が増えていくこと、また建築基準法の一部を改訂することにより、既存住宅ストックをGHに活用することによって、より質の高い建物をGHとして活用できるようになつたことを話され、最後に実態調査にて全国の3分の1でも実態が明らかになることにより、障害者の方々が地域の中で安心して生活できるように、今後も実態調査を続けていきたいと語られました。

その後、記念講演では「こんな夜更けにバナナかよ」の原作者でありノンフィクションライターの渡辺一史氏より「なぜ人と人は支え合うのか」の講演がありました。「こんな夜更けにバナナかよ」は16年前に本が発行されて、昨年



渡辺一史 氏

子に飲み食いしたり運び出したりがどう」と言うところです。鹿野さんがボランティアさんには「勉強させてもらいます」という状況でした。筋ジストロフィーの人は寝返りも出来ない人一倍弱い立場のはずなのに、鹿野さんは人一倍強い人に見える不思議な人だったそうです。この本の題名『こんな夜更けにバナナかよ』は、鹿野さん

映画化されました。この主人公の鹿野さんという方は、筋ジストロフィーを患つて亡くなつた実在した方で、24時間の介護が必要とされる中介護保障では1日13時間分しか保証されておらず、残りの11時間分は無償のボランティアを見つけてお世話をしてもらい、さらに自宅にはボーネタブルの人工呼吸器があり痰の吸引が必要で本来なら痰の吸引は医師や看護師でないとやれないのでですが、24時間の自宅介護では医師や看護師がついて常に出来ないので、鹿野さん本人が了承のもと、ボランティアにやつてもらつていた為、1日3交代で最低4人ボランティアが必要でした。そのため大学や専門学生を中心に入れ材を集めるのも本当に大変だったそうです。渡辺氏は「當時からフリーライターをしていましたが、障害者は「困難な目にあってもめげずに頑張る人たち」ボランティアは「献身的に無料で奉仕する素晴らしい人たち」というイメージでしたが、鹿野さんはとてもわがままで、自分の意に添わないと「もう帰つていいよ」とボランティアに対して平気で言つてしまつ方で、ボランティアはボランティアで、平気で鹿野さんの冷蔵庫の中身から勝手に飲み食いしたり遅刻をしてきたり、「通常だと、鹿野さんがボランティアに「来てくれてありがとうございます」と言うところを、ボランティアが鹿野さんに「勉強させて頂いてありがとうございます」という状況でし



錦子はね太鼓

のボランティアが深夜に鹿野さんがバナナを食べたいと言い出し、ムツとしながらもバナナを食べさせてあげたら、もう1本食べさせろと言われ、出た言葉が『こんな夜更けにバナナかよ』でした。

振り返ると、自分達が鹿野さんを支えた気になつていたのが、実は、自分達が鹿野さんに支えられていた事に気がついたそうです。障害や福祉を全く知らなかつたし、鹿野さんと一緒に過ごせたのはたつた2年4ヶ月ですが、この経験がなかつたら今の自分はおらず、鹿野さんに人生そのものを変えられましたと語られました。

鹿野さんを支えた気には、おらず、鹿野さんと一緒に1ヶ月ですが、この経験を語られました。1日目の研修終了後、情報交換会が本格グリーンタワーで幕張にて行われ、500名と多数の参加をいただきました。アトラクションとして、江戸時代から銚子だけに伝わる日本一過激な格闘のようない太鼓「銚子はね太鼓」が披露され、その迫力で会場を盛り上げていただきました。

第3分科会「グループホームで暮らす方の意思決定支援を考える」では、自ら意思を決定することに困難を抱える障害のある方が、日常生活や社会生活に関して、自らの意思が反映された生活を送ることができるよう、本人自らの意思決定を重視しているグループホームの支援現場の実践として、強度行動障害の方に対し、本人に合わせたわかりやすい支援が必要となり、意思を形成する支援につながっていくこと、そして様々な場面を選択する機会、経験を増やしていく必要があること、また、重度・最重度と

型ケルーフホーム」「共生型サービス」など新たなサービスが創設されたが、これらのサービスを先駆的にいち早く開始した事業所の実践を知り、今後の支援・事業展開を学びました。一つのグループホームで介護保険と障害福祉サービスを実施しており、1階は認知症の方、2階に障害者の方が暮らし、1階は24時間職員を配置しているため、2階の入居者が体調不良等で日中事業所を休む等の緊急時にも助け合える強みがあることや、難病の方が主に入居しております胃ろう、吸引、人工肛門の方の受け入れをしており、各関係機関との連携や入居者を支えるための人材育成に力を入れているなどの実践が発表されました。

どれだけ回避できるかが重要であると話されました。また、これから法制度の抜本的な見直しと各都道府県で基準を設けるべきではないか、グルーブホームが今までよいのか議論が必要ではないかなどの意見が出されました。

言われている支援度の高い方とのコミュニケーションは難しいことだが、しぐさや表情から想いをくみ取ることにより、本人の意思を感じることができることなど、現場での意思決定支援に生かすことができる内容でありました。

第4分科会「鍵はチーム支援。改正障害者総合支援法で連携はどう進化するか」では障害のある方が住み慣れた場所で働き、生活し続けることは私たち支援者の願いであり、その役割を果たすには、利用者を支える手段や制度を理解し活用することが不可欠であります。新たに創設されたサービス「自立生活援助」や「就労定着支援」をよりうまく運用していくためのポイントや他機関・多職種連携について学びました。

第5分科会「いのちをつなぐ／災害を生き抜く 様々なリスクを乗り越える」では、利用者そして職員を守るために、何を備えなければならぬのか、これまでの災害時の状況を学びました。受災時の経験から備蓄品として車載の携帯電話の充電器、カセットコンロのカセット等の消費の早いものは備蓄を増やしておくことと、救援物資のリストも事前に考えておくことが必要であるとのことでした。こだわりのある方など個々への配慮を事前に知つておくために備蓄品での食事を経験させることも大切であること、また、深夜の災害発生では薬で寝ている人は起きてこないことがあり、避難に時間を要する一因となってしまうことがあるとのことでした。

備蓄品や支援物資の求め方、各事業所のマニュ

アル作り等の備えと災害は決して他人事ではありません。いつ我が身に降りかかるかもしないという意識を強く持つことのできた内容でありました。

第6分科会「語ろう夢を／本人・世話人部会」では、グループホームのあるあるサイコロトークを行い、サイコロに書いてあるお題について体験・経験談を話していました。ゲーム感覚でみなさん少し照れながらもサイコロを振つてのゲーム感覚でリラックスして楽しまり出しがして、地域にある社会資源と密接に連携することが大切であるなどの発表がありました。

第5分科会「いのちをつなぐ／災害を生き抜く 様々なリスクを乗り越える」では、利用者として職員を守るために、何を備えなければならないのか、これまでの災害時の状況を学びました。受災時の経験から備蓄品として車載の携帯電話の充電器、カセットコンロのカセット等の消費の早いものは備蓄を増やしておくことと、救援物資のリストも事前に考えておくことが必要であるとのことでした。こだわりのある方など個々への配慮を事前に知つておくために備蓄品での食事を経験させることも大切であること、また、深夜の災害発生では薬で寝ている人は起きてこないことがあり、避難に時間を要する一因となってしまうことがあるとのことでした。

備蓄品や支援物資の求め方、各事業所のマニュ

アル作り等の備えと災害は決して他人事ではありません。いつ我が身に降りかかるかもしないという意識を強く持つことのできた内容でありました。

第4分科会「鍵はチーム支援。改正障害者総合支援法で連携はどう進化するか」では障害のある方が住み慣れた場所で働き、生活し続けることは私たち支援者の願いであり、その役割を果たすには、利用者を支える手段や制度を理解し活用することが不可欠であります。新たに創設されたサービス「自立生活援助」や「就労定着支援」をよりうまく運用していくためのポイントや他機関・多職種連携について学びました。

第5分科会「いのちをつなぐ／災害を生き抜く 様々なリスクを乗り越える」では、利用者として職員を守るために、何を備えなければならないのか、これまでの災害時の状況を学びました。受災時の経験から備蓄品として車載の携帯電話の充電器、カセットコンロのカセット等の消費の早いものは備蓄を増やしておくことと、救援物資のリストも事前に考えておくことが必要であるとのことでした。こだわりのある方など個々への配慮を事前に知つておくために備蓄品での食事を経験させることも大切であること、また、深夜の災害発生では薬で寝ている人は起きてこないことがあり、避難に時間を要する一因となってしまうことがあるとのことでした。

備蓄品や支援物資の求め方、各事業所のマニュ

アル作り等の備えと災害は決して他人事ではありません。いつ我が身に降りかかるかもしないという意識を強く持つことのできた内容でありました。

事務局より報告

12月6日、千葉市社会福祉法人父の樹会様に、今回の土砂災害の甚大な被害に対し、500万円のお見舞金をお渡しいたしましたことをご報告いたします。

第6分科会「語ろう夢を／本人・世話人部会」では、グループホームのあるあるサイコロトークを行い、サイコロに書いてあるお題について体験・経験談を話していました。



第6分科会の様子

里見会長より、吉野秀和理事長、大原淳一施設長ガーデンセブンへお渡しいたしました。



今後の一日も早い復旧を願っております。

第47回 「手をつなぐ作品展」開催日程お知らせ

北部地区

令和2年2月5日(水)～7日(金)
イオンモール八千代緑が丘
アゼリア広場

中部地区

令和2年2月14日(金)～17日(月)
ユニモちはら台
イベント会場

南部地区

令和2年2月21日(金)～23日(日)
イオンモール富津
1階アゼリアコート

福利厚生委員会報告

○第4回施設職員交流野球大会



今年度の予選大会は6月3日ナスパ・スタジアム、中台運動公園野球場、下総運動公園野球場の3球場にて実施。これは毎年行われる全国社会福祉軟式野球大会の関東予選会の予選日として球場を予約しており、この関東予選会が予定通り実施されたので予選日を当協会の野球大会として開催としました。今年度は9チームからの出場エントリーがあり、7月5日中台運動公園野球場での決勝大会に進んだのはその中の6チームとなりました。

この野球大会では日程の調整等、協力していただいたスタッフの皆さんに支えられ大会運営できました事を改めて感謝致します。ありがとうございました。来年もまた多くの参加をお待ちしております！

見事に優勝！大会3連覇!!（佑啓会Aチーム）

今年も予選大会は圧倒的な強さ！今年度は戦力ダウンとの噂を跳ね返す強さで予選の2試合とも完封試合。これは今年も優勝間違いなしかと思われました……それが3年連続での同カードとなつた決勝戦では小池更生園と3対2延長サヨナラ勝ちで辛くも優勝。しかし最後まで諦めない粘り強さはお見事！試合終盤での気迫あふれるプレーはまるで甲子園での高校野球を見ている様で、やはり最後に勝ちきる所は凄いの一言です!!

3年連続の準優勝！（小池更生園）

決勝トーナメント1試合目はみづき会を相手に9対3で隙のない試合運びでの勝利。今年こそリベンジ！今年の小池更生園は強い！やはり決勝戦は1点を争う好ゲーム。小池更生園が2点を先制すると同じ回に佑啓会も2点を取る展開でそのまま延長戦へ……しかし惜しくもサヨナラとなり3年連続の決勝戦の軍配は佑啓会Aチームとなりました。残念ながら3年連続での準優勝とはなりましたが、試合巧者の小池更生園の強さは本物。来年こそは優勝！期待が持てる好チームでした。

○大会結果

優勝

準優勝

3位

敢闘チーム賞

健闘チーム賞

○大会出場チーム

東葛地区…大久保学園・小池更生園

千葉地区…佑啓会

北総地区…野菜福祉会・ロザリオの聖母会

成田地区…大成会&菜の花会連合・清郷会

県南地区…安房広域福祉会・みづき会

合計9チーム

○第26回施設職員交流バレーボール大会

優勝

準優勝

3位

敢闘チーム賞

健闘チーム賞

○大会結果

優勝

準優勝

3位



○大会結果

優勝

準優勝

3位

敢闘チーム賞

健闘チーム賞

○大会結果

優勝

準優勝

3位

敢闘チーム賞

健闘チーム賞

○大会結果

優勝

準優勝

3位

敢闘チーム賞

健闘チーム賞

○大会結果

福利厚生委員会 委員長
上総喜望の郷 中村敏久

合計16チーム

ておりましたが3年振り見事優勝に返り咲きました。今年はみずほ学園が2回戦で敗退する波乱もある中、ふる里学舎は苦戦する場面もありながらも決勝へと駒を進め、決勝では貫禄のストレート勝ち！やはりプレッシャーにも強い!!ふる里学舎は粘り強いチームでした。

支援スタッフ部会報告

●台風15号による被災を振り返って



9月8日夜から9日朝にかけて関東を横断し、広い範囲に被害をもたらした台風15号。多古町にある本会の各事業所においても、台風通過直後から停電や断水、

孤島状態となりました。

近年の異常気象による自然災害への備え、非

常用自家発電機の他に小型自家発電機を設置し

たり、飲料水や生活用水、非常食、懐中電灯等

といつた基本的な防災用品については備蓄した

りするなどして災害に備えました。しかし、今

回のように電気や水道などのライフルインが長

期間にわたって復旧しないことは想定していな

かたため、対応が思うようにいかず利用者

の方に安全で安心できる生活環境を提供するこ

とができず、ご迷惑をお掛けしてしまいました。

また、非常用自家発電機は起動後2日目で故障しました。このため、エアコン等の空調設備

は使用できなくなり、トイレ等で使用する生活

用水の確保や衣類の洗濯等、多くの課題に直面

しました。

特に今回の災害では、まだ気温が高い日が多く利用者には、公用車の中でエアコンをかけて休んだり、タオルを水で濡らして首にかけたりするなどして少しでも暑さが凌げるようになります。洗濯は手洗いできるものは手洗いし、乾燥も園庭に干すことで乗り切りました。

このような厳しい状況の中でも、地域の方々や保護者、その他多くの皆様からの温かい励ましのお言葉、水や物資の提供などお力添えを頂いたおかげで、体調を崩す利用者もなく、台風15号による災害をなんとか乗り越えることができました。

今回の災害によって私たちは、普段から備えることの重要性を再認識するとともに、このようない時こそ、人と人との繋がりが大切であることを学びました。そして、本会が地域の社会資源の一つとして、今後は災害時には地域の方のお役に立てるように、取り組んで参ることをお誓い申し上げ、ご報告とさせていただきます。

社会福祉法人 横の実会 ひかり学園

◆◆
支援課長 成毛 崇

●感謝

この度は台風や豪雨により被害に遭われた事業所におかれましては、ここに改めてお見舞い申し上げます。

当法人は、台風15号で報道された送電線の鉄塔が倒壊した場所から車で10分程度の所にあります。

近くにはゴルフ場が多くあり、自然豊ですが

今回、台風では倒木で道は寸断され、今まで

に見たことのない光景に言葉を失いました。

台風上陸直後の9日から、停電により全て

ライフルインが止まり、ガレージと物置も破壊

されガラスも割れ……幸いにも利用者に怪我や体調不良者もなく、居住空間は無事で安心しました。

以前より法人全体で災害対策実地訓練として、大規模災害を想定し屋外に非常用テントや仮設トイレの設営、食事は薪ストーブを使っての炊き出し等を行つており8月に訓練を終えたばかりでした。しかし、実際に被災すると訓練通りにはいかないが一致団結！そんな中、県や市に支援要請をしても行政も混乱している様子で不安になりそうな中、いち早く県内の事業所から励ましのお言葉や燃料等、数多くの支援物資を届けて頂き非常に心強かつたです。改めて、みづき会は多くの方々に支えられていることに気付かされ「感謝」しかございません。



停電から6日後の15日午前0時には電源車4台が配備され24時間電気が使えるようになり、井戸ポンプが稼働し建物に水が供給され多くの洗濯待ちに待つ入浴をする事が出来ました。やはり、電気の大切さを痛感したものです。停電から11日後の20日に電気が復旧したこと

で安堵しました。

今回は事業所だけでなくご家庭が被災された方々もおります。一日も早い復興を願うと共に、みづき会は私達に出来ることがあれば協力していきたいと思います。この度はありがとうございました。

5

社会福祉法人 みづき会 上総喜望の郷

藤崎博文

新事業所紹介

社会福祉法人まつかぜの会 多機能型事業所 みらいず



みらいず外観

「だれかの「いらない」をあなたの「ほしい」へ」
みらいずは、平成31年4月に生活介護（定員8名）、就労継続支援B型（定員12名）の多機能型事業所として、松戸市稔台に開設いたしました。そのひと月後令和に変わり5月30日（ごみの日）、「リユース工房みらいず」として松戸市から無償譲渡された木製粗大ごみ等の再生販売をする店舗をオープンいたしました。

昨年より、松戸市がごみ減量の取組である3R活動の一環として、当法人と他事業所と共同で木製粗大ごみ等の再生販売が可能かどうか、実証及び検討をしてまいりました。その結果、ワックス後の磨きや雑巾での拭き取り、製品の持ち運び、接客など様々な工程があり一人ひとりの障害特性に合わせた作業が提供できることが実証されました。それを踏まえて店舗開設にいたりました。月1回のペースで松戸市内にある3か所のクリーンセンターから回収した粗大ごみ等を事業所で清掃・補修をし店舗販売するほか、毎月開催される市場でのフ



家具清掃

リマーケット（これは2事業所で交代）や、また松戸市内のイベントなどで販売しております。この事業では、だれかの「いらない」をあなたの「ほしい」へお渡し役をコンセプトにしております。家具等が売れたときの利用者の嬉しそうな顔は自信に満ちてあります。地域と関わりを持ちながら、彼らが意欲を持つて取組めるよう支援すること、さらには工賃向上を目指していきたいと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

施設長 柳町美恵子

社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会 じよぶ・さくさべ

「移転により環境が整った事業展開」

じよぶ・さくさべは就労移行支援事業10名、就労継続支援B型事業10名、計20名の多機能型障害福祉サービス事業所として平成30年8月1日にオープンいたしました。もともと、でい・さくさべにて平成23年より就労移行支援事業を、また平成25年より就労継続支援B型事業を運営しておりました。幸い利用者さんが通わっていたでい・さくさべの隣接地に空き事業所が見つかりました。2階を就労移行支援事業、1階を店舗



ご来店お待ちしています。



じよぶ・さくさべ外観

現在、就労移行支援事業では主に清掃や厨房での食器洗浄業務のほか、組み立て作業や座学など多岐に渡ったトレーニングを行っております。他就労支援機関の皆様と連携を図らせていただきながら、就職された方々が長く働き続けられるよう支援しています。
また、就労継続支援B型事業はシフォンケーキやパン、ステイックパウンドケーキなどを製造し、店舗での販売以外にも近隣の子どもルームや保育園などからも注文いただき納品しております。千葉県障害者就労事業振興センター様にも指導いただきながら、衛生的な環境で製造できるよう取り組んでいます。今後はより地域の皆さんから愛される店舗、事業所となれるよう事業を展開してまいりたいと思っております。
就労系事業所としてまだ未熟ではございますが、今後ともどうぞご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。

施設長 染谷香苗

兼就労継続支援B型事業の活動場所として改修し、使わせていただきました。「いつか自分たちのお店をもつ」とが就労継続支援B型事業の利用者の皆さんのがんばりの夢でしたので、夢が一つかなえられたことを大変うれしく思っております。

支援スタッフ
から見た!

わが施設の自慢・アピールポイント③

平成20年度から30回にわたり82の“チチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は2つの“チチ自慢”です!

千葉ブロック…社会福祉法人才リーブの樹…オリーブ鎌取福祉作業所

昨日よりも今日、今日よりも明日

2016年に運営法人移行により社会福祉法人才リーブの樹の事業所の1つとして仲間入りした千葉市緑区にある就労継続支援B型事業所です。建物は約30年前に建てられたもので古くはあります、庭も室内も広々としており緑区という名前に相応しく緑がたくさんあります。

封入などの受注を施設全体で取り組

みながら、草刈りや野菜作りを行う外班・機織りや縫製を行なう手芸班・牛乳パックをリサイクルして紙を作る紙漉き班と色々な作業を行っています。手漉きで漉いた紙に、昔ながらの手法の活版印刷で一枚ずつ印刷し名刺やはがきを作りますが、文字が小さく鏡文字であり想像を超える細かな作業です。しかし、仕上がった名刺は上品で印刷機で作ったものとは違う温かみがあります。とても時間のかかる、そして手間暇のかかる作業ではありますが、大きな収入とはならない為、今は受注作業が中心となっています。

最初は慣れない封入作業や包装作業に戸惑い、戸惑われな



事業所外観

作業の様子

かつた利用者も3年たった今は毎日の目標を自身で設定し、その目標に少しでも近づけるよう、そして昨日よりも今日、今日よりも明日と大きな目標を持って作業に向かうようになりました。働く意欲・喜び・やりがいを感じながら通って来ています。協力する素晴らしさを知り、仲間との関わりを大切にしています。また、誰が来ても温かい笑顔でお迎えし居心地のいい場所として提供できる、それがオリーブ鎌取の自慢できるところだと思っています。

施設長 浅見 有理子

東葛南ブロック…社会福祉法人実のりの会 障害福祉サービス事業所 ビック・ハート

ビック・ハートの影の立役者

ビック・ハートでは、就労継続支援B型事業でクリーニング作業をしています。作業以外にも、春には八千代市内を流れる新川の桜並木を見ながら4km程歩くハイキング（お花見）や、毎年どこに行こうかと盛り上がる一泊旅行、今年は利用者と職員で忘年会等、沢山のお楽しみ行事も企画しています。

現在利用者が47名おり、平均工賃20,000円台の維持は大変さがありますが、利用者と支援員共に切磋琢磨しながら作業をしています。

そんな日々の作業をする上でビック・ハートには影の立役者がおります。

クリーニング師の渡邊さん。御年73歳!!

写真の通り溢れるパワーで毎日クリーニングの流れや効率の良い方法を考えてくれています。他にも、扇が壊れた!結束機が動かない!水漏れした!等の時、何



事業所外観



渡邊さん

でも直せる器用な方でもあるのです。彼のおかげで工賃向上に繋がっている部分も大きく、まさに“影の立役者!!”

厳しい中にも優しい笑顔が溢れる渡邊さんの事が皆大好きです。

支援主任 赤沼圭

